

平成30年産(29年播)麦生育情報 No.6 (H30.5.17)

(本年産麦の情報は今回が最後です。)

(情報作成) 滋賀県農業技術振興センター

滋賀県近江八幡市安土町大中 516 (TEL:0748-46-4391)

1 気象経過と生育状況

① 気象の経過 (彦根气象台、平成20～29年の平均値との比較)

要素		平均気温	日照時間	降水量
期間				
4月	上旬	高い	平年並	平年並
	中旬	高い	やや多い	やや多い
	下旬	かなり高い	多い	やや多い
5月	上旬	やや低い	かなり少ない	かなり多い

注) 平均気温 <±0.5℃:平年並、±0.5～1.0℃:やや高い(低い)、±1.0～2.0℃:高い(低い)、±2.0℃<:かなり高い(低い)
日照時間 <±5hr:平年並、±5～10hr:やや多い(少ない)、±10～15hr:多い(少ない)、±15hr<:かなり多い(少ない)
降水量 <±10mm:平年並、±10～20mm:やや多い(少ない)、±20～30mm:多い(少ない)、±30mm<:かなり多い(少ない)

② 生育状況

農業技術振興センター麦類作況調査(4月13日時点)では、11月6日播の「農林61号」、「ふくさやか」ともに平年に比べて草丈は短い、葉数はやや多く、茎数はかなり多い。11月22日播の「農林61号」、「ふくさやか」でも、茎数は平年に比べて多い(表1および後掲グラフ)。

表1 平成30年産(29年播)麦類作況調査の結果

農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

品種名	年次	3/30 調査			4/13 調査		
		茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	葉数	茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	葉数
農林61号	H30年産	964	39.7	8.1	988	60.6	9.6
	平年(参考)	668	47.7	8.6	628	68.3	9.3
ふくさやか	H30年産	910	37.0	8.2	862	55.7	9.5
	平年(参考)	640	49.8	8.8	584	69.0	9.3

※播種日:平成29年11月6日。

※平年(参考)はH20～29年産(H19～28年播)の10年間の平均値。

※播種量はH23年産(H22年播)までは10kg/10a散播(全面全層播)、H24年産(H23年播)以降は8kg/10a条播(条間25cm、ドリル播)。

表2 麦類作況調査における出穂期・開花期・成熟期

農業技術振興センター（近江八幡市安土町大中）

基準播種日	農林61号						ふくさやか						サチホゴールド			ファイバースノウ		
	11/5			11/20			11/5			11/20			11/5			11/5		
産年	H30	平年	較差	H30	平年	較差	H30	平年	較差									
出穂期	4/20	4/17	3日遅	4/24	4/24	同	4/18	4/14	4日遅	4/23	4/22	1日遅	4/5	3/31	5日遅	4/16	4/17	1日早
開花期	4/25	4/28	3日早	4/30	5/3	3日早	4/24	4/26	2日早	4/28	4/30	2日早	-	-	-	4/20	4/23	3日早
成熟期		6/6			6/9			6/3			6/6			5/18			5/27	

※平年の月日は、「農林61号」、「ふくさやか」は10年間、「ファイバースノウ」は8年間、「サチホゴールド」は7年間（2010～2016年産）の平均値。

☆5月14日現在の「農林61号」と「ふくさやか」（農技センター作況調査）



「農林61号」



「ふくさやか」

表3 登熟期の有効積算気温による小麦の成熟期予測

(H30年5月14日時点、農業技術振興センター)

品種名	1) 播種基準日	1) 出穂期	成熟期予測日 2)			平年の成熟期	昨年の成熟期
			5/15以降の日平均気温 3)				
			平年並の場合	平年+1℃の場合	平年-1℃の場合		
農林61号	11/5	4/20	6/8	6/6	6/10	6/6	6/3
	11/20	4/24	6/10	6/8	6/13	6/9	6/9
ふくさやか	11/5	4/18	6/4	6/2	6/6	6/3	6/1
	11/20	4/23	6/7	6/5	6/9	6/6	6/5

- 1) 播種基準日および出穂期は農業技術振興センター麦類作況調査データ。
- 2) 出穂期の翌日からの有効積算気温(10℃以上)が、「農林61号」は390℃、「ふくさやか」は360℃に最も近くなる日を予測日としている(5/14までの日平均気温は彦根気象台観測データ)。
- 3) 5/15以降の日平均気温はH20年～H29年の10年間の平均値を平年とする。
平年+1℃、-1℃は、5/15以降の日平均気温が毎日、平年値より+1℃、-1℃になったとして計算。

2 県内の状況

- 播種時期の違いによる生育差が大きく、特に県北部の播種が遅かったほ場では茎数は少ないものの、その他のほ場ではおおむね平年並の生育量にまで追いついている。
- 出穂期は平年よりやや遅れたものの、4月下旬の平均気温がかなり高かったことから開花までの日数は平年より短く、開花期は平年並からやや早い状況になっている。

3 今後の管理

(1) 適期収穫

- 出穂期以降の有効積算気温による予測では、本年の成熟期は、5月14日時点で、平年より1～2日遅く、昨年より1～5日遅いと推測される(表3)ものの、平年より開花期が早く、気象情報では今後高温に経過すると予報されており、「**成熟期は平年並になると見込まれる**」ので、収穫作業が遅れないよう、準備を整えておく。
- 麦類の成熟期は、外観上は黄緑色が消失して褐色になり、子実が糊状の硬さに達した時で、**収穫適期は、小麦では成熟期から2～4日後、大麦では1～3日後頃**になる。
- 収穫は子実水分30%以下**になる頃に行う。水分が高くと、穀粒の損傷や品質の低下が著しく、乾燥調製施設の処理能力の低下につながり、コストも高くなる。一方、刈り遅れるほど容積重が低下し、さらに降雨にあうと、倒伏や穂発芽などの品質低下を起こす危険が高まるので注意する。なお、**ビール麦は子実水分25%以下で収穫**する。
- 梅雨の合間を縫っての収穫作業になる場合は、立毛の状態でもまめに子実水分を測定するなど、ほ場の観察を十分に行い、ほ場ごとの作業計画を綿密にたて、できるだけ刈り遅れないよう注意する。

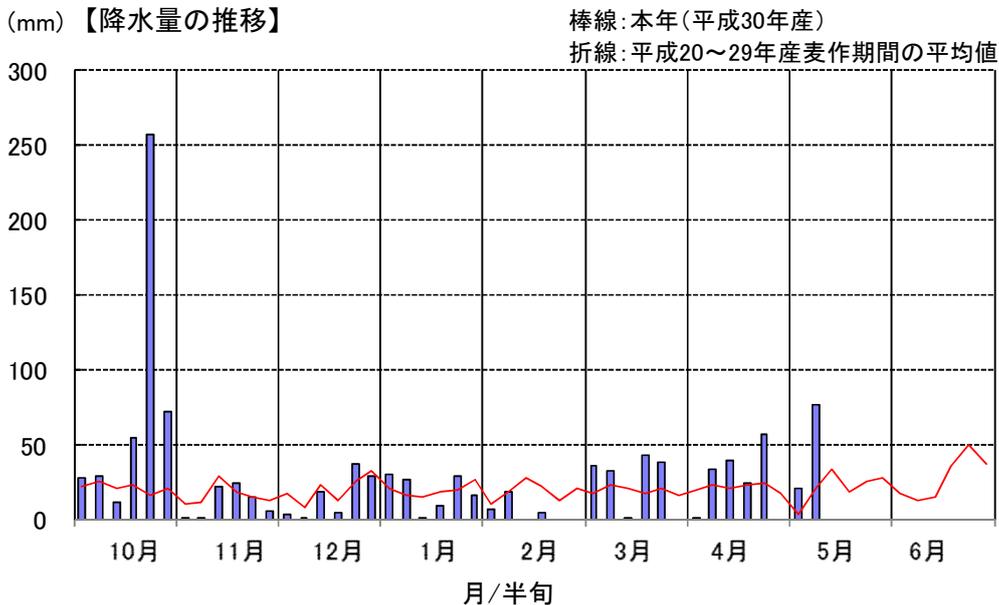
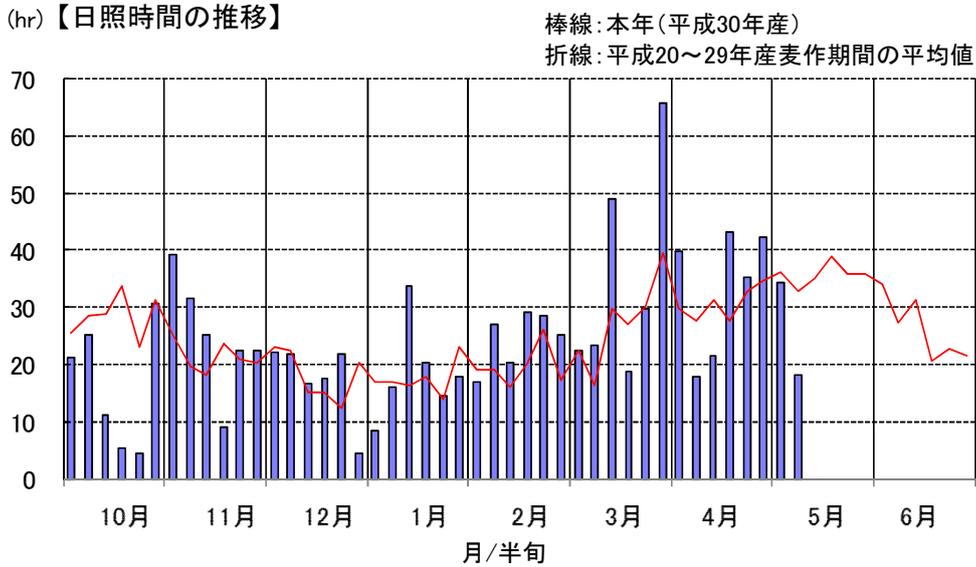
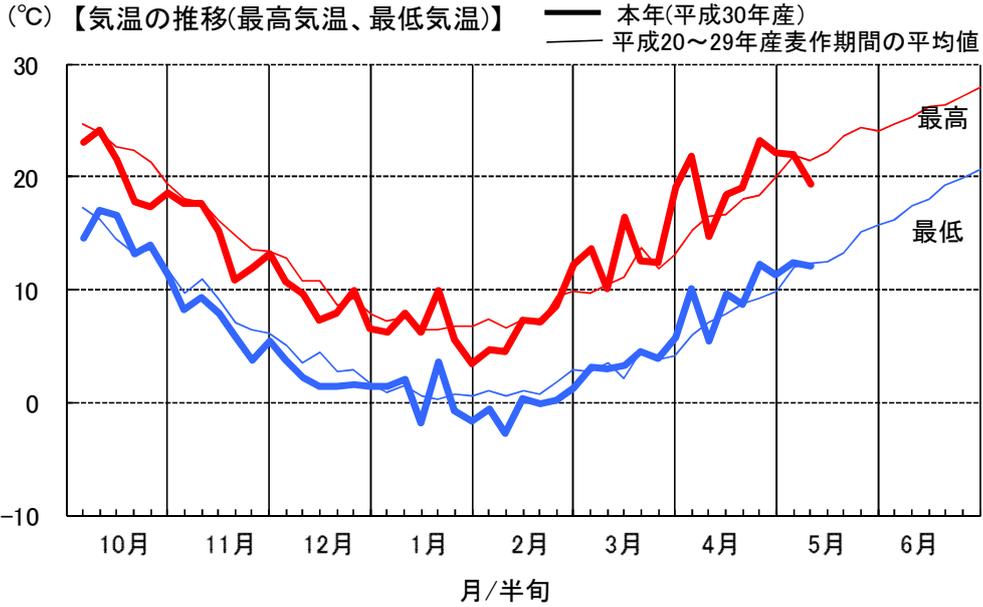
(2) 排水対策

- 登熟期の湿害は減収するだけでなく、加工適性を含め品質を大きく低下させるので、排水溝を今一度点検し、速やかに排水するよう、**溝さらえ等を徹底**して行う。

【参考サイト】

農業技術振興センター	http://www.pref.shiga.lg.jp/g/nogyo/
病虫害防除所	http://www.pref.shiga.lg.jp/g/byogaichu/
彦根地方気象台	http://www.jma-net.go.jp/hikone/
異常天候早期警戒情報	http://www.jma.go.jp/jp/soukei/

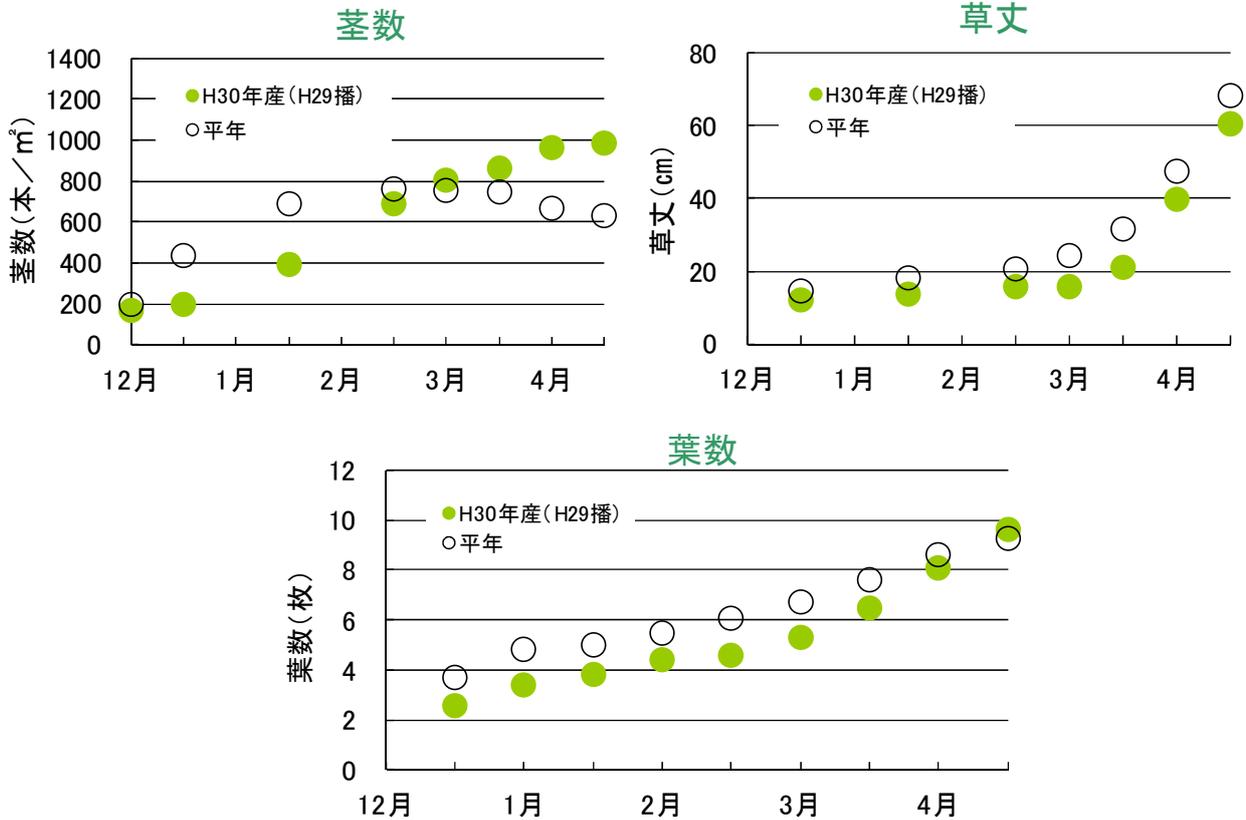
平成30年産(平成29年播) 麦作期間半旬別気象図(彦根気象台観測)



平成 30 年産生育調査結果（1）

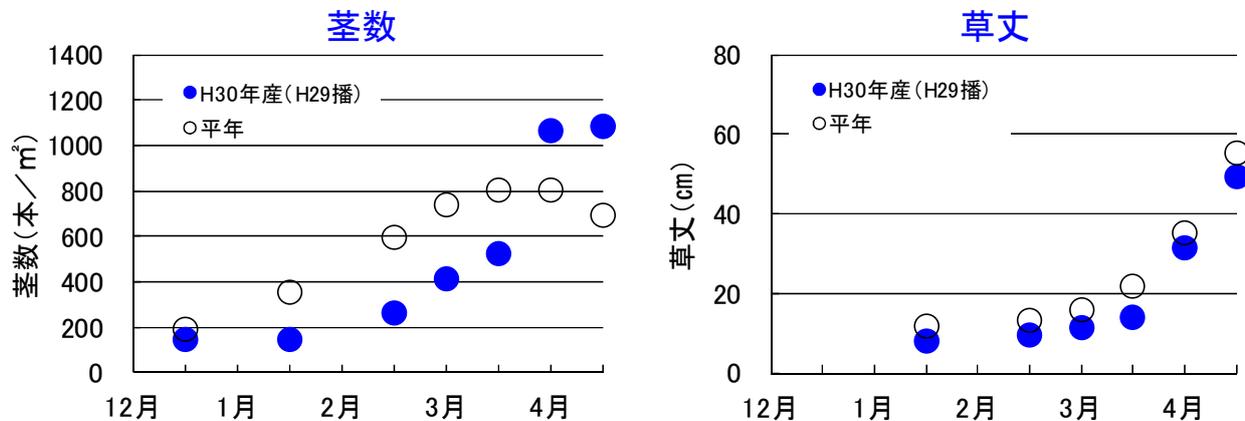
「農林61号」

平成29年11月6日播



(参考)

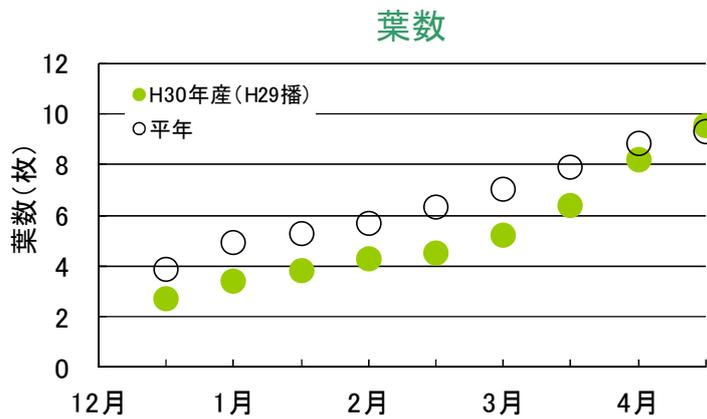
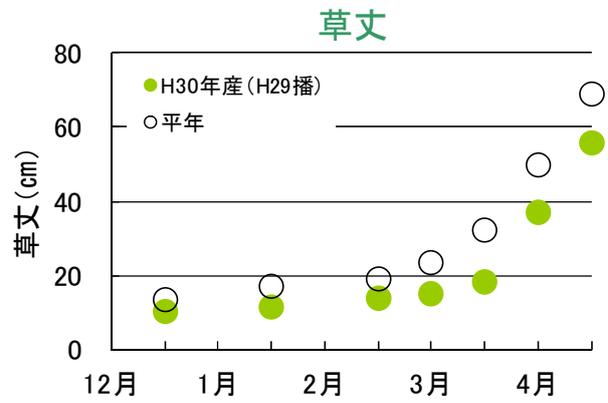
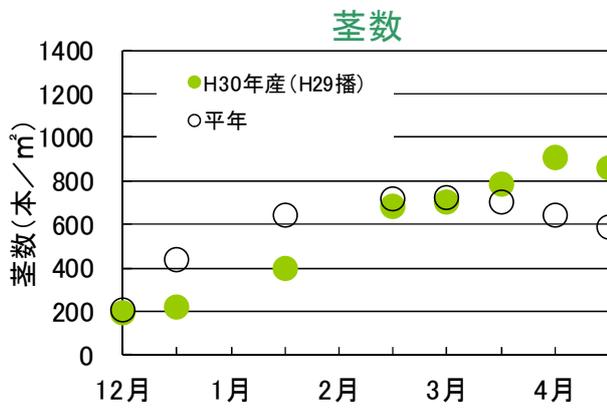
平成29年11月22日播



平成30年産生育調査結果（2）

「ふくさやか」

平成29年11月6日播



(参考)

平成29年11月22日播

